

# 廿日市市景況調査 (2020年1~3月)

◇平成17年11月の市町村合併後は、旧廿日市市(合併後の区域)の調査結果になります◇

## 全国の3月景況「業況DIは、過去最大の悪化幅を記録 先行きは、新型コロナウイルス流行で不安広がる」

全産業合計の業況DIは、▲49.0(前回比▲19.6ポイント)。新型コロナウイルス流行の影響により、インバウンドを含む観光需要の減少に加え、外出の自粛や消費マインドの低下、イベントの中止等に伴う相次ぐキャンセルにより、客足が激減した宿泊業や飲食業、観光関連業を中心とするサービス業や小売業の業況感が大幅に悪化した。また、サプライチェーンの混乱や部品、資材等の調達難による生産活動への影響も続いており、新型コロナウイルスの世界的な流行による世界経済の先行き不透明感が広く業況の押し下げ要因となっており、中小企業の景況感は1989年4月調査開始以来、過去最大の悪化幅(※)を記録した(※これまでは、2011年4月時の▲11.8ポイント)。先行き見通しDIも▲56.5と世界的な新型コロナウイルスの流行拡大に伴うインバウンドを含む観光需要の減少やサプライチェーン・生産活動への影響に加え、消費マインドの低迷、消費税率引上げ、人手不足による人件費の上昇、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、世界経済の動向など不透明感が増す中、中小企業の業況感は2011年6月以来のマイナス50台が目に見え、業況は悪化している。

## 会議所管内の1~3月景況「新型コロナウイルス流行による売上減少が顕在化」

前回調査では大幅に業況DIが改善していたが、1月頃より顕在化し始めた新型コロナウイルスの世界的な流行により、受注減少が始まっており、総合業況DIも大幅にマイナスとなった。(▲6.5→▲41.7) 産業別の業況DIでは、全業種でマイナスとなっており、特に製造業でプラス値だったのが大幅なマイナスとなっている。(18.2→▲41.7) 建設業も0レベルからマイナスへ転じ(0.0→▲33.3)、卸・小売業(▲14.3→▲20.0)や、サービス業(▲30.0→▲50.0)はマイナス幅が大きくなり悪化している。

向こう3ヵ月(1~3月)の先行き見通しでは、全産業合計の総合業況DIが▲41.7と前回調査(1年12月▲12.9)よりマイナス幅が大幅に増加しており先行きを不安視する傾向が強い。

全産業の景況推移は、若干持ち直しの兆しが見えてきていたところに今回のコロナウイルス禍により、大幅な減速感をもたらしている。今回調査は3月下旬時点での回答だったため、休業等に至っているところは無かったが、今後、緊急事態宣言下で休業に至った業種等が出てくるので次回調査ではさらなる悪化が懸念される。

以下、産業別の各事業所から寄せられた、景気動向の要因や業界動向など。

【製造業】	『政府の新型コロナ対策関連制度の有効活用』『荷動きが例年に無く悪い。行動が制約されている為、営業活動も難しい』『販売価格の適正化、求める人材の確保、働き方改革を含めた合理化を図って企業体質を堅牢にしていこう』
【建設業】	『コロナウイルスの影響により部材が入荷しないため完工が遅れる』
【卸小売業】	『コロナウイルスの影響が出てくるのでは無いかと危惧』『コロナウイルスによる全体的な景況悪化』
【飲食・サービス業】	『働き方改革の推進に伴う社内の仕組み、従業員の意識改革が課題』『稼働時間の制約、残業時間の制約』『コロナウイルスの影響で経済活動が停滞し、商品原材料の相場が下降』『コロナウイルスの影響が出始めており先行きが見通せない』

業種別景況概要	全国(3月)		廿日市 1~3月と先行き見通し									
	全産業		全産業		製造業		建設業		卸小売業		飲食・サービス業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
収入・売上	▲41.3	▲54.4	▲54.2	▲50.0	▲75.0	▲62.5	▲33.3	0.0	▲40.0	▲40.0	▲50.0	▲62.5
採算	▲43.5	▲52.4	▲37.5	▲37.5	▲25.0	▲37.5	▲66.7	0.0	▲20.0	▲20.0	▲50.0	▲62.5
仕入単価	▲22.9	▲21.5	▲16.7	▲12.5	▲12.5	0.0	▲66.7	▲33.3	▲20.0	▲40.0	0.0	0.0
雇用人員	12.9	14.9	20.8	16.7	25.0	12.5	33.3	33.3	40.0	20.0	0.0	12.5
業況	▲49.0	▲56.5	▲41.7	▲41.7	▲50.0	▲37.5	▲33.3	▲33.3	▲20.0	▲20.0	▲50.0	▲62.5

※ 全国調査は【日本商工会議所LOBO調査】をご参照ください

(対象 67社 回答 24社)

## ●DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断状況を表す。ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上など実数値の上昇や下降を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
 業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

特に好調	$50 \leq DI$
好調	$25 \leq DI < 50$
まあまあ	$0 \leq DI < 25$
不振	$\blacktriangle 25 \leq DI < 0$
きわめて不振	$DI < \blacktriangle 25$

## ●設備投資は？

※複数回答・無回答あり

1～3月		4月～6月 見込み	
実施した	土地	0	0
	建物	2	1
	機械	9	6
	車両	6	3
	OA	3	3
	その他	0	0
	計	20	13
実施していない・しない		12	16

## ●当面の問題点は？

第1位	売上、需要の停滞	32.8 %
第2位	従業員、人材の確保難	18.8 %
第3位	人件費の増加	15.6 %
第4位	販売単価の低下、上昇難	9.4 %
第5位	材料費、仕入価格の上昇	9.4 %

※回答の「その他」はランク外扱い

